

目的 高層階居住が子供に与える影響については、高層という建築上の物的条件が主として議論されているが、子供の成育条件においては時間的にも空間的にも接触の多い母親あるいは近隣関係も考慮する必要がある。そこで母親の高層階居住に対する意識、育児に対する意識や生活意識・生活行動から、子供が高層階居住する場合に克服されるべき諸問題について考察していくことを目的とする。

方法 調査は首都圏における高層集合住宅団地近辺、又は団地内にある幼稚園経由で、通園している子供の母親を対象に質問紙調査法(自記式)(昭和61年9月~10月)で実施した。有効回収数528票(回収率85.9%)、対象児童は3~6歳児である。

結果 居住階を低層階(1~2階)中層階(3~5階)高層階(6~14階)の3段階として、分析した。①居住階別に子供の外遊びの実態とすると、平日・休日・1週間全体とも高層階居住の子供の遊び時間は最も多く、次いで低層階居住の子供である。中層階の頻度は少ない。この結果は高層階居住の母親が子供と積極的に外遊びさせようとする意識を反映していることを示している。②高層階居住の母親でも高層階居住を肯定的に捉える者と否定的に捉える者があり、建築上の物的条件だけでは住宅の評価は規定されない。そこで住環境に関する評価を7項目で行い、母親の住環境に対する評価を積極的評価群と消極的評価群に分けた。それらと子供の生活行動との関連とすると、外遊びについては有意差が大きい。前者の場合、友達の数が多く健康な子供が多い。③母親の育児に対する意識を不安なし群と不安あり群に分けると、不安なし群の子供の方が平日の外遊び頻度は高い。